

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			必修

教科書	第一学習社 高等学校 標準 文学国語	副教材等	第一学習社「高等学校 文学国語 学習課題集」
-----	-----------------------	------	------------------------

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

○授業では先生が生徒に発問することがあります。積極的な学習態度は「主体的に学習に取り組む態度」ならびに「思考力・判断力・表現力」として評価します。

○単元の中で書く活動があります。また学習プリントや単元ワークを行うこともあります。いずれも「思考力・判断力・表現力」として評価します。

○定期考査は授業の内容を中心に出题されます。授業ではただ板書されたことをノートに写すのではなくしっかりと自分で考え理解しましょう。「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」として評価します。

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			必修

教科書	第一学習社 高等学校 標準 論理国語	副教材等	第一学習社「標準 論理国語 学習課題集」 数研出版「評論速読トレーニング1000」 桐原書店「セレクト漢字検定」
-----	-----------------------	------	--

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的、創造的に考える力や、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	☐ 定期考査、単元テスト ☐ 学習活動の状況 ☐ ワークシートへの取り組み	☐ 定期考査、単元テスト ☐ 学習活動の状況 ☐ ワークシートへの取り組み	☐ 定期考査、単元テスト ☐ 学習活動の状況 ☐ ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 定期考査は授業内容を中心に出题します。授業には集中して取り組みましょう。
- 不明な点や納得のいかないことは積極的に質問しましょう。
- 原則的に週の最初の授業で漢字の小テストを行います。
- 家庭学習(授業の復習、漢字学習、テスト対策など)を推奨します。
- 考査の点数だけでなく、一生懸命努力する生徒を積極的に評価し応援します。
- 忘れ物や提出物の遅れ、授業中の内職や居眠りは大幅なマイナスになります。

北海道恵庭北高等学校 3年論理国語 年間指導計画（2単位）				A 20時間				B 40時間				計 60時間				
				4・5・6月	6・7月	7・8月	9月	10・11月	12・1月							
科目の目標 （１） 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２） 思考力、表現力、判断力等 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げた （３） 学びに向かう力、人間性等 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯力・にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国・世界の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を				小論文を書く	えを文影み構取をり考え他者が自己の主与	を題把握し析、的「展の開	つミいユてニのケ筆「者シのヨ主ン張のを「把化握すに	とにの語関れに人い間をの理活めと深自然	にら、象「一的な表現をうをこ握のし意味が							
学年	第3学年	担当	川村教枝・仲川美穂													
使用教科書		高等学校 標準論理国語（第一学習社）														
指導領域		A 書くこと		○												
授業時数の計		20時間		20												
指導領域		B 読むこと			○	○	○	○	○							
授業時数の計		40時間			8	8	8	8	8							
指 導 事 項																
知識及び技能	（１）	ア	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。			○										
		イ	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めること。				○									
		ウ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。		○			○								
		エ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。	○					○							
	（２）	ア	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。													
		イ	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。													
		ウ	推論の仕方について理解を深め使うこと。													
	（３）	ア	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。													
書くこと	A	ア	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。	○												
		イ	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	○												
		ウ	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。	○												
		エ	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。													
		オ	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。													
		カ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。													
	B	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。			○										
		イ	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。					○								
		ウ	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。			○			○							
		エ	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。				○									
		オ	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。													
		カ	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めること。		○											
		キ	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連づけて自分の考えを広げたり深めたりすること。													
				教 材 名												
※各単元の目標について （１） 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 （２） 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わる力」を踏まえて設定する。 ※各単元の評価基準の設定について （１） 「知識・技能」の評価基準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として示す。 （２） 「思考・判断・表現」の評価基準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として示す。 （３） 「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準は、①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）を踏まえて設定する。				【小論文を書く】	明鏡としての他者」榎本博	岡本真一郎の意見の分極化」	化「平田オリザの文	間「千松伸也のしもう人	田「支えあうことの意味」鷺							

教科	国語	科目	国語教養	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態			選択

教科書	高等学校 言語文化(第一学習社)	副教材等	パスポート国語必携(桐原書店)
-----	------------------	------	-----------------

1 学習の目標

・知識・理解の定着を図りながら、日本語に対する関心・意欲・態度を高める。 ・言語感覚を磨き、進路実現に対応できる総合的な学力の育成を図る。 ・表現しようとすることを通して自分のものの見方や考え方を知り、より深化しようとする姿勢を育む。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・言葉の特徴やきまり、漢字などについての知識を身につけている ・国語の一般常識を理解し、日常生活での確に活用できる	・相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書いたり、文章を的確に読み取ることによって、自分の考えをまとめ、深めたりすることができるようにする	・相互評価に積極的に参加している ・言語文化に対する関心を深め、国語力の向上を図ることができる ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を理解する
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○課題への取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○課題への取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○課題への取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

○授業は「座学」の講義形式のほかに、作業学習や演習方式のものがあります。授業に集中して取り組みましょう。 ○提出物は評価の大切な材料です。丁寧さも評価の対象になります。 ○締め切りが設定されているものは、締め切り厳守です。期限内に提出するようにしましょう。 ○考査の点数だけでなく、一生懸命努力する生徒を積極的に評価し応援します。

北海道恵庭北高等学校　３年国語教養 年間指導計画（２単位）				A　４０時間					B　２０時間				計　６０時間						
				４・５月	５・６月	６・７月	８・９月	９・10月	10・11月	11・12月	12月	12月	12・1月						
科目の目標 （１）　知識及び技能　実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （２）　思考力、表現力、判断力等　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりする。 （３）　学びに向かう力・人間性等　言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を				名漢遣字い・近慣現代表文現学・史口・語現代法仮	語漢・字・名言近現代文学史・故事成	文章の整え方①	文章の整え方②	史漢・古・典・常・識・異・句・古・典・文・学	語漢字・敬語・時事用語・難解	語句の意味・同意語・反意語	手紙文の構成・敬語の使い方	ことわざ・故事成語のまとめ	四字熟語のまとめ						
学年		第３学年		担当		川村・小林・中井・仲江													
使用教科書				パスポート国語必修　五訂版 （第一学習社）															
指導領域				A　書くこと		○	○			○	○	○							
授業時数の計				４０時間		8	9			8	9	6							
指導領域				B　読むこと				○	○				○	○	○				
授業時数の計				２０時間				5	6				2	3	4				
指　導　事　項																			
知識及び技能	（１）	ア	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。																
		イ	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。										○	○					
		ウ		○	○			○	○										
		エ	語句や語彙の構造や特色、用法や表記の仕方を理解すること			○	○			○	○								
	（２）	ア	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。																
		イ	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。																
		ウ	推論の仕方について理解を深め使うこと。																
	（３）	ア	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。																
	書くこと	ア	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、適切な語句を選択し、使用できること。	○	○			○	○	○									
		イ	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。																
ウ		自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。									○								
エ		多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。																	
オ		個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。																	
カ		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。									○								
キ		文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。			○														
読むこと	イ	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。				○													
	ウ	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。																	
	エ	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。																	
	オ	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。											○						
	カ	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めること。																	
	キ	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連づけて自分の考えを広げたり深めたりすること。											○						
					教　材　名														
※各単元の目標について （１）　「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 （２）　「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする力」を踏まえて設定する。				テ基礎ト編実第一回	（基礎ト編実第九回）	テ表現ト編実第一回	（表現ト編実第六回）	ス発展実第一回	（ス発展実第一回）	（発展実第一回）	ス発展実第一回	（ス発展実第九回）	ス発展実第十回	ス発展実第十一回	ス発展実第十二回				
※各単元の評価規準の設定について （１）　「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として示す。 （２）　「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として示す。 （３）　「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉、③他の２観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）を踏まえて設定する。				（基礎ト編実第一回）	（基礎ト編実第九回）	（表現ト編実第一回）	（表現ト編実第六回）	（ス発展実第一回）	（ス発展実第一回）	（ス発展実第一回）	（ス発展実第九回）	（ス発展実第十回）	（ス発展実第十一回）	（ス発展実第十二回）					